

要請「来年もこれからもオホーツク・網走・北見で SL に会いたい」

平成24年9月10日

網走市 SL 歓迎プロジェクト実行委員会(網走市)

構成:網走市、網走市観光協会、網走ホテル旅館組合
網走中央商店街振興組合、MOT レール倶楽部

網走商工会議所(網走市)

ふるさと銀河線沿線応援ネットワーク(北見市)

釧路臨港鉄道の会(釧路市、釧網本線利活用推進協議会会員)

「北海道発展の歴史は鉄道とともにあった。鉄道は地域の宝、大切な生活の足であり、貴重な観光素材。もう一度、鉄道の価値を見直そう」。昨年、今年と2年にわたる SL オホーツク号の運行は沿線地域住民の鉄道に対する意識を大きく変えました。鉄道が持つ社会的役割、魅力、そして、まだまだ秘めたる可能性を SL オホーツク号は多くの人々に気づかせてくれました。SL オホーツク号の運行と御社の多大なる御配慮、御労苦に対し、沿線各地域を代表して心より御礼を申し上げます。

36年ぶりに蒸気機関車の汽笛が響いた昨年夏、大勢の人々が力強く、はかなげな音色に胸を打たれました。ある人には懐かしく、ある人には新鮮で、ある人には前へと一歩踏み出す勇気を与えてくれました。そして今年、汽笛再び。

SL の運行は、昨年、今年ともに試運転から営業運転までの4日間で沿線に約1万2000人が繰り出し、乗車人数も営業運転2日間で1400人～1600人と、多くの観光客、鉄道ファンそして地元住民の注目を集め、それぞれの街の賑わいの創出や交流人口の拡大に大きな貢献を果たしました。私たちは心躍る思いで SL を待ちわび、特に今年は北見、美幌、大空、網走、小清水、斜里の全2市4町の駅前や鉄道ゆかりの地などで歓迎の催しを行いました。これらの関連行事の参加人員は全体で延べ約1万人(2日間)に達したほか、沿線各地域が「SL を歓迎しよう。来年も SL に会いたい」という合言葉でつながり、自治体の枠を超えた物産販売やイベントの相互 PR、「WeLoveSL キャラバンカー」の運行など様々な連携も生まれました。地域の中でも鉄道ファンと商店街やかまぼこ製造業者、地ビール業者などが連携し、数々の記念商品が生まれました。まさに鉄路と SL が地域と地域、人と人を結びつけ、新たなムーブメントを築いたのです。

私たちのふるさとの歴史を思い起こす時、多くの人と物、そして夢を運び、つないでくれた鉄道に感謝せずにはいられません。その役割は今も色あせず、生活の足として、観光資源として、釧網本線と石北本線は地域内外の人々から愛され続けています。オホーツク海、流氷、知床の峰々、広大な農村景観など、この路線だからこそ伝えられる魅力が数多くあります。この地域の鉄道はもっと多くの人々を幸せにできます。いつまでも地域の笑顔とともに歩んでください。鉄道の存在価値を発信し、ふるさとを元気付けていくために、来年も、そして、これからも私たちの街の大切な鉄路で、また SL に会いたいです。私たちも沿線各地域で手を携えながら全力で SL の運行を盛り上げることをお誓いします。

以下、要請いたします。

記

1、SL オホーツク号の来年以降の継続運行

以上